

生存科学研究ニュース

VOL. 12. NO.6

1997. 11. 10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3563-3518

「21世紀医療システム」研究会

21世紀医療システム研究会の第3回が、10月20日(月)、生存科学研究所会議室で行われた。

講師は川上武氏で、演題は「21世紀への社会保障改革」である。これは同氏の同名の近著(勁草書房、1997.9.5)が教材として用いられ、したがって、同著の内容目次に沿って議論が進められた。すなわち、

第1章 クォヴァディス? 日本の社会保障

第2章 戦後の医療・福祉政策の基調

第3章 医療・福祉の転換を促すもの

第4章 21世紀の医療・福祉の姿

第5章 日本のかたちをかえる社会保障改革の5章からなり、きわめて包括的に目配りをしながら、要点がうまく整理されているが、特に研究会メンバーが関心を持ったのは、第4章、第5章であり、議論もそこに集中した。

第4章では、(1)ライフサイクルの変貌が疾病構造の変化を通じて健康観の変化をもたらしたこと、(2)医療技術進歩が臓器移植等を通じて生命倫理の問題を登場させたこと、(3)病院の自動化や医療システムの情報化が医療に

おける人間疎外を促進する傾向を促すことに注目し、医療が本来持っている「癒し」の要素に鑑みて、技術一辺倒から医療を文化と見ることの大切さを述べている。

第5章では、(1)日本型医療・福祉システムをどう再編成するかが論ぜられ、規制緩和、介護保険法の行方、診療報酬制度と薬価基準、地域医療とマンパワーの確保などに触れたあと、医療機器の開発を含め社会保障の充実が産業構造に及ぼす影響に注目して、新しい医療・福祉経済学の確立が求められると述べている。

以上のうち、最も身近な第4、第5章を中心に白熱の議論が日本型医療システムの長短について行われた。特に司会者(江見)から、生存科学の立場からは、環境問題とそれへの対応を、川上氏の体系の中に採り入れる必要があり、それによって同氏の所論はより説得力を増すというコメントがなされ、川上氏もこの点には全く同意である旨が答えられた。

次回の研究会は、11月17日(月)に愛知みずほ大学教授 西三郎氏が「21世紀の医療システムを論じるために解明されることが期待される課題」のテーマで報告する。

第1回生存科学基礎論研究会

生存科学基礎論研究会の第1回が、10月9日(木)、生存科学研究所会議室で行われた。

今回の議題は、「報告書」の形式で取りまとめることになった平成7～8年度の研究成果の具体的な編集刊行計画および執筆要領であったが、討議の結果下記の如く決定した。

。 報告書の編集・刊行について

1. 報告書のタイトルを「生存科学と生存の理法を求めて」(仮題)とする
(サブタイトルをつけず、「まえがき」のなかで「生存科学基礎論研究会報告書」であることを明記する)
2. 体裁はA5判、9ポイント横組、250～300ページ程度
3. 「目次」における各章の配置は、「研究発表一覧」の順序に従う
4. 英文レジュメは巻末に一括して掲載する
5. 刊行予定は平成10年3月末、500部(予定)

第3回常務理事会

平成9年度第3回常務理事会は10月2日(水)14:00～16:00まで生存科学研究所会議室で開催された。議事次第は下記の通りであった。

1. 収支と運用状況について
会員獲得の努力目標
2. 川崎病研究会との覚書変更について
3. 受託事業の経過報告
4. 生存科学講座の現状と課題
5. 内部規約の整備

6. 行政改革に伴う生存科学研究所の位置付け
7. その他

討議の結果、

1. 一部基本財産預入が満期を迎えるのに伴い、運用替えが検討され、1億円単位で新たな運用を考えることが提案され、了承された。
2. 川崎病研究会からの借入金返済について、すでに覚え書を交わしていたが生存科学研究所の今後の収支状況を考慮し、9月19日江見理事長が川崎先生を訪問、平成10年度の返済予定額1千万円を10年、11年度に分割するよう依頼、川崎先生が快諾して下さった旨の報告がなされ、新たな覚え書が了承された。
3. 専務理事より合同研究が順調に4回まで進んでいることが報告された。
4. 今後の生存科学講座の在り方について検討が行なわれ、今期は第4回までで一旦中止し、小島常務理事を中心にしたプロジェクトチームを作成、マスタープランを作成し、来年度から再スタートすることが了承された。
5. 現在まだ不十分な内規について、事務処理規則は江見理事長、職員退職給与規定は筑井副理事長、会計処理規則は鈴木常務理事、慶弔規定は師岡専務理事がそれぞれ原案を作成、次回の常務理事会で検討することになり、了承された。
6. 2000年から生存科学研究所の主務官庁も文部・科学技術省になることが予想されるが、その結果、むしろ活動基盤が拡大し、事業の面では新たな機構のほうが生存科学研究所の特性が生かせるのではな

いかと思われるが、今後の動向を注意深く見守ってゆくということで合意された。

第3回生存科学講座

生存科学研究所第4回公開講座が下記の通り行われた。

日時 平成9年9月27日(土)

1:30~3:30PM

場所 銀座福音会センター

講師 早稲田大学教授・本研究所理事

田村 貞雄 先生

講演 日本の医療保険制度のゆくえ

田村教授はまず日本の少子高齢社会の現状について触れ、これが先進諸国に共通した現象であることから、社会保障の在り方が世界的に問い直されるようになってきていること、このことに関連して、北京外国語大学院生が修士論文として提出した「日本の医療保障制度のゆくえ」の概要が紹介された。

次いで、少子高齢社会に対応して、医療保障をどう考えるかにつき、かつて武見太郎氏が唱えた「健康価値論と健康投資」についてそのシステム論的考察を紹介した。

以上の立論を踏まえて、田村教授は「日本の医療保険制度改革への提案」を同教授の「ヘルスエコノミックスの視点」から展開したが、その考え方は、医療活動を従来の経済価値の次元で、市場経済的評価に結びつけて捉えるのではなく、人間生態学的視点を含めた多次元的、かつ長期的視点で捉え、社会経済の変動によりよく適応する能力の培養と、それを可能にする生存条件の確保を医療保険改革の思想基盤に置くべきこと、その上で、

公的な機能と家庭機能との新たなミックス・システムを創造すべきことが強調された。

第4回生存科学講座のお知らせ

第4回生存科学講座は下記の通り開催いたしますので、ぜひご参加下さい。なお、参加費は1000円ですが、生存研の会員は無料で参加できます。

記

日時 平成10年1月24日(土)

1:00~3:00

場所 生存科学研究所会議室

講師 土屋健三郎 生存科学研究所副理事長前産業医科大学学長

テーマ 科学技術の進歩と医療

参加費 一般1000円、会員無料

連絡先 TEL03-3563-3518 FAX03-3567-3608

ご参加を希望される方は事務局まで葉書、あるいはファックスでご連絡下さい。

平成9年度第3回

「公益信託武見記念生存科学研究基金」
運営委員会・武見賞受賞者選考委員会

10月7日(火曜日)午前11時30分より三井信託銀行本店において開催された標記委員会において、今年度の武見記念賞及び武見奨励賞の受賞者の選考が行われ、江草安彦氏が武見記念賞の受賞者と決定されました。今年度の選考においては学識経験者として、当財団評議員である江橋節郎氏と向山定孝氏に選考委員会に加わって頂き受賞者の選考を行った。

江草氏は、総合福祉施設「旭川荘」の創設

に参画され、全国の障害者、高齢者の医療福祉の向上に尽力されるとともに、川崎医療福祉大学を創設され学長として医療福祉理念の実践の先頭に立たれたことが評価されての受賞であった。

研究所日報

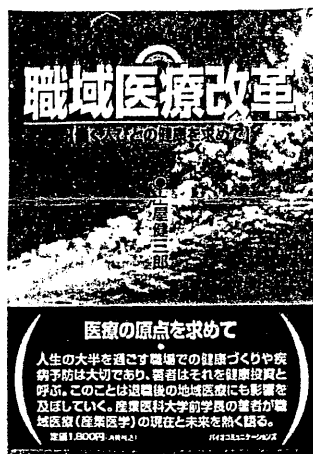
- 9月24日(水) 第4回受託事業「個人毎の健康度と疾病リスクの解析に関する研究」合同会議会
- 9月27日(土) 平成9年度第4回生存科学講座
- 10月2日(水) 第3回常務理事会
- 10月9日(木) 第1回生存科学基礎論研究会
- 10月20日(月) 「21世紀医療システム」研究会

10月21日(火) レオンチェフ文庫等協力委員会

10月27日(月) 川崎病研究会独立問題打合せ

10月28日(火) 第3回編集打合せ

会員寄贈図書



職域医療改革

[働く人びとの健康を求めて]

土屋 健三郎 著

平成8年11月発行
発行所

ハイコミュニケーションズ
(株)

定価 1,800円